ボーナスクイズの皆さんの解答

セルの色が白色：冬ダイヤで解答　　灰色：春夏秋ダイヤで解答

2016年4月16日土曜日、私は会社の同僚と一緒に東京駅7時24分発の北陸新幹線“あさま603号”に乗った。本庄早稲田駅に8時12分着。ここで同僚が下車した。

8時22分、高崎駅に列車が着く。私は急いで吾妻線のホームに向かう。8時24分、ホームにはB子が居た。昨晩、B子に電話して「渡したい手紙があるので、8時20分にホームで会おう。電車の中で読んで欲しいから・・・」と伝えてあったのだ。会ってすぐにペットボトルのお茶２本を鞄から取り出し、１本の蓋を開けてからB子に渡す。私ももう1本の蓋を開けてゴクゴクと飲む。B子も飲んだ。

8時30分、ホームに高崎終点の吾妻線の電車が到着。この車両が折り返し、B子が乗る8時46分発の電車になるのだ。発車まで15分ほどあるので、「まだ少し時間があるから中で・・・」と言ってトイレに近い席に座る。5分ほどして私が「手紙を・・・」と言う頃にはB子が眠りそうになっていた。もちろん、B子に渡したお茶には睡眠薬を入れてあったのだ。辺りを窺ってからトイレのドアを開け、B子を抱えて中に入って首を絞めて殺害した。

8時41分、何事も無かったかのように電車を降り、新幹線のホームへ急ぎ足で向かう。8時43分発の北陸新幹線「はくたか553号」に飛び乗ることができた。

8時59分、軽井沢駅に到着。駅前の取引先に書類を届けてからバス停留所に行き、9時35分発の西武高原バスに乗った。今は春だが、バス会社はまだ冬ダイヤで運行しているため、このバスは草津温泉まで行っていない。途中の万座・鹿沢口駅で下車して、草津温泉行きに乗り換えなければならない。

10時31分、万座・鹿沢口駅にて下車する。草津温泉行きは10時37分の発車なのでまだ来ていない。本来ならB子はそのバスに乗るためにここで待っていたはずだが、当然、B子が居るはずはない。ここまで乗ってきたバスは10時36分発なので、バスを降りて5分ほど休憩している運転手に長野草津口駅から草津温泉行きのバスがたくさん出ていることを教えてもらう。もちろん既知のことではあるのだが・・・。

10時37分、草津温泉行きのバスが来た。乗車して30分ほど経った11時5分に草津温泉バスターミナルに着くと、C輔が待っていた。・・・（クイズの問題文の6行目につづく）

A男としては、
東京方面発で本庄早稲田駅に停まる一番早いあさま603号で高崎駅に8：23に到着。
吾妻線の8：46高崎駅発万座・鹿沢口駅行きにB子と乗車。
9：54岩島駅着までに犯行が行えれば岩島駅下車。
10：09岩島駅発高崎行きに乗車。
11：18高崎駅着。
11：23北陸新幹線はくたか559号に乗車。
11：39軽井沢駅着、書類を置いて
11：54軽井沢駅発のバスで万座・鹿沢口駅へ
12：57万座・鹿沢口駅着そのまま行けば草津温泉に行くがB子を待つために下車。
15：06万座・鹿沢口駅発草津温泉行き最終で草津温泉へ。

岩島駅までに犯行を行えなければ以下

吾妻線の8：46高崎駅発万座・鹿沢口駅行きにB子と乗車までは同じ。

10：22万座・鹿沢口駅着までの間に、列車内で犯行に及ぶ。
10：37万座・鹿沢口駅発のバスで軽井沢駅へ向かう。
11：38軽井沢駅着、書類を置いて
11：54軽井沢駅発のバスで万座・鹿沢口駅へ
12：57万座・鹿沢口駅着そのまま行けば草津温泉に行くがB子を待つふりで下車。
15：06万座・鹿沢口駅発草津温泉行き最終で草津温泉へ。

以上の様な犯行だが、
本庄早稲田駅までの北陸新幹線に乗車。
軽井沢駅前に書類を届けて、
バスで万座・鹿沢口駅迄行き
万座・鹿沢口駅で乗り換えて草津温泉迄。
B子と接点は無いようなアリバイが出来る。

A男は、東京から会社の同僚と「あさま603号又はあさま605号又はあさま607号」に乗り、高崎駅に来た。
一番遅いあさま607号で高崎駅には、12:02に着く。
B子と一緒に高崎駅12:38発の「特急草津83号」に乗った。
睡眠薬入りのコーヒー(?)は、乗車前に飲ませておく。
出発後すぐに、トイレでB子を絞殺した。
次の新前橋駅(12:44着)で特急から降り、上越線(12:48発)に乗り換え、高崎(12:58着)に戻った。
13:02発の「あさま609号」に乗り、軽井沢駅(13:22)で降車。
軽井沢13:58発のバスに乗れば、万座鹿沢口に行ける。乗り換えて草津バスターミナルへ。
4月22日からの時刻表しかネットでは手に入りませんでした。
吾妻線だけを考えるのではなく、上越線を使うのがミソと思いました。
きっと、4月16日(土)も特急草津号があったのだろう。
トイレ付の電車だから。
万座鹿沢口でのバスの乗り換えも、きっと接続していたはず。
冬ダイヤと春夏秋ダイヤの切り替えが行われるタイミングでの犯罪は、十津川警部でも難しいはずだ。

A男

9:44東京駅発　あさま605号に乗車

⇩

10:31本庄早稲田駅で同僚下車

⇩

11:02　軽井沢駅到着

⇩　取引先に書類を届ける

11:54草津温泉行バスに乗車

⇩

12:57万座鹿沢口駅で下車

⇩

13:41万座鹿沢口駅から高崎行電車に乗車

⇩

13:54長野原草津口駅で下車

B子

12:55高崎駅より吾妻線に乗車

⇩

14:19長野原草津口駅に到着

⇩　13:54に到着していたA男が乗車した

14:25長野原草津口駅を発車

⇩　A男はB子に会い睡眠薬入りの飲物を飲ませ
意識が朦朧としたB子をトイレに連れて行き
絞殺した

14:58万座鹿沢口駅に電車が到着

A男

15:06万座鹿沢口駅から草津温泉行のバスに乗車

⇩

16:36草津温泉に到着する

A男の行動
東京発　9:44 あさま605号　乗車
(本庄早稲田着　10:31　同行の会社同僚は下車)
↓
高崎着　10:41 あさま605号　下車
(高崎駅でB子と合流、睡眠薬入り飲料を渡し飲ませる)

高崎発　10:49 JR吾妻線　乗車(B子と共に乗車、車内トイレで絞殺)
↓
新前橋着 10:59 下車
新前橋発 11:04 両毛線　乗車
↓
高崎着 11:15 下車
高崎発　11:23　はくたか559号　乗車
↓
軽井沢着 11:39　　下車(駅前の取引先に書類を届ける)
バス
軽井沢駅(北口1番)発M　11:54 乗車(バス運転手の証言あり)
↓
(万座鹿沢駅　13:02)

草津温泉 着　　14:32 下車
B子の行動予定はJR吾妻線 高崎発 10:49 乗車 万座鹿沢駅着12:47下車し
バス万座鹿沢 発 13:02 乗車、草津温泉着 14:32 下車　だったと思われる

B子は高崎発 8:46 の万座鹿沢着　10:22　の電車に乗り，　万座鹿沢口にてA男と合流し万座鹿沢発10:35発のバスにて草津温泉に行く予定であった.
A男は，会社の同僚とあさま603号に乗車. 途中本庄早稲田で同僚を別れた後，高崎駅で8:22分　あさま号を下車し，吾妻線在来線ホームにてB子と待ち合わせ，何らかの方法で睡眠薬を服用させる(あるいはそのように仕向ける).
その後，A男は高崎発8:43の はくたか553号に乗車，8:59分　軽井沢駅に到着.
駅前の取引先に書類を届け，　9:35発　万座プリンスホテル行きの西武高原バスに乗車して　10:26　万座鹿沢口に到着，（無人駅の万座鹿沢口駅で折り返し運転の待機中だった車内で睡眠薬により寝ていたB子を殺害(あるいは多量接種で死亡していた)し，社内トイレに移動させる.
（そして，何食わぬ顔をいして）バスを当初予定の　万座鹿沢口駅　10:35発　草津温泉行きに乗り換えて草津温泉バスターミナルに到着，C輔と合流した.

東京　９:44発
↓　北陸新幹線あさま605号
（本庄早稲田　10:32発）
↓　北陸新幹線あさま605号
軽井沢　11:02着
↓　取引先に書類を渡す
軽井沢　11:54発
↓　西武高原バス
万座鹿沢口　12:57着
↓　乗り換え
万座鹿沢口　13:41発
↓　JR吾妻線上り各駅停車
川原湯温泉　14:18着
↓　ホーム反対側の電車に乗り換え
川原湯温泉　14:19発
↓　JR吾妻線下り各駅停車　この間に殺害
万座鹿沢口　14:58着
↓　乗り換え
万座鹿沢口　15:06発
↓　西武高原バス
草津温泉　16:36着

①あさま603号　軽井沢まで

クラインアントに荷物を届ける　9時完了

②予め車を用意して万座・鹿沢口で殺人

移動に約49分　殺人に10分として約60分

③そのまま車で高崎まで（約1時間40分）

④高崎よりバスに乗る

A男は事前にB子に連絡。「取引先に寄った後、11:54 軽井沢発の草津温泉行きのバスに乗るので、万座鹿沢口駅バス停で待ち合わせよう。12:57 に万座鹿沢口駅に到着するので、それに合わせて高崎発の吾妻線に乗ってきてね。お弁当を買っておくから、バスの中で昼食を一緒に食べよう。」
1. あさま603号 7:24 東京発に会社の同僚と乗る。本当はあさま601号 6:52東京発に乗って、軽井沢で取引先に寄る時間が欲しかったが、あさま601号は本庄早稲田に止まらない。同僚と乗り合わせたアリバイ作りのため、仕方なくあさま603号に乗る。同僚と8:13 に本庄早稲田駅で別れる。8:43 軽井沢駅到着。
2. 8:47 軽井沢駅発の草津温泉行きバスに飛び乗る。学生時代以来、久しぶりにダッシュをしてしまった。息を切らせて乗り込んだため、お陰でバスの運転手には印象付けることができたようだ。本当は取引先に寄って、軽井沢に来たアリバイ作りをしたかったのだが、寄る時間が作れなかったのでバスの運転手に軽井沢から乗ったこ

とを印象付けるしかない。9:50 万座鹿沢口駅バス停に到着。このまま乗っていれば草津温泉に向かうのだが、9:55 出発ぎりぎりにバスを降りる。「高崎から吾妻線に乗ってくる友人と待ち合わせをしていたのだが、来ないので次の電車が来るまでここで待っています。」と運転手に告げる。これで完璧に運転手に印象付けることができ、軽井沢からバスに乗ったアリバイとなったはずだ。

3. 国道沿いのコンビニでお弁当を調達。お弁当に睡眠薬を仕込む。1時間弱しか時間がないので、大量に睡眠薬を飲ませる必要がある。そのため、睡眠薬を仕込んだお弁当を再度コンビニに持ち込み、電子レンジにかけてもらう。これで水蒸気により、お弁当に大量の睡眠薬がなじむはずだ。

4. 用意した睡眠薬入りのお弁当を持ち、10:45 万座鹿沢口駅発の吾妻線高崎行きに乗る。11:42 中之条駅で下車。

5. 11:50 中之条駅発の吾妻線大前行きに乗り換え、B子と合流。B子はちょっとびっくりしていたが、迎えに来てくれたこと、しかも昼食が予定より早く食べられることを喜んでくれた。早速用意してきたお弁当で昼食を食べる。到着までに睡眠薬が効くのが何とか間に合ったようだ。意識がもうろうとなったB子を介抱するようにトイレへ連れて行き、絞殺。12:47 万座鹿沢口駅に到着。この電車は大前が終点で、13:37 に折り返すので、それまで発見されることが遅れることを祈る。

6. 12:57 に到着した草津温泉行きのバス停の前で待ち合わせの素振りを見せる。早めに遺体が発見されて大騒ぎとならないか、内心ドキドキだったが、それがかえって待ち人が来ず、そわそわしているように見せる演技に一役買ったようである。出発時間待ちのバスの運転手に、8:47発の一本前のバスでここに来たこと、待ち人が来ず、一旦ここのバス停で下車し、今の時間までここで待っていたことを告げ、草津温泉行きの他の行き方を運転手に尋ねる。これで軽井沢からここまで来た前のバスの運転手とのやり取りと合わせて、アリバイの完成だ。13:02 バスに乗り込み草津温泉に向けて出発。14:32 草津温泉バスターミナル到着。待っていたC輔と合流し、B子が来なかったとC輔に告げる。

まずA男は、7:24発のあさま603号に同僚と乗る。同僚が本庄早稲田駅で降りた後、高崎駅で新幹線を降りる。ここで、あらかじめ「やっぱり予定が変わったので高崎から同じ電車で行こう。」とB子を誘っておいて、8:46高崎発の吾妻線直通電車に乗る。車内で睡眠薬を入れたコーヒーを飲ませた後、眠くなってきたところでトイレに連れ込み絞殺。A男は渋川で電車を降り（9:11着）、9:37発の上越線上りで高崎へ戻る（10:02）。その後は北陸新幹線11:03発あさま633号に乗り、軽井沢着11:21。軽井沢11:54発の西武高原バスで草津温泉へ向かう。途中、バスを乗り換えるため、万座鹿沢口駅でバスを降り、後続の15:06発草津温泉行のバスに乗り換えて、16:21に草津温泉に到着。以上が私の考えた推理です。

A男の行動
７:２４　東京駅発「あさま６０３号」に同僚と乗車
８:１２　本庄早稲田駅着　同僚が下車
８:２２　高崎駅着　下車
８:２４～８:４１　８:４６高崎駅発万座・鹿沢口駅行き電車内でB子を殺害
８:４３　高崎駅発「はくたか５５３号」に乗車
８:５９　軽井沢駅着　下車　駅前の取引先に書類を届ける
９:３５　軽井沢駅発のバスに乗車
１０:３１　万座鹿沢口駅着　下車
１０;３７　万座鹿沢口駅発のバスに乗車
１１:０５　草津温泉バスターミナル着　下車　C輔と合流

A男の行動
・MAXたにがわ401号　東京6:36発　⇒　高崎7:34着（同僚が本庄早稲田7:25着まで同行）
・あさま601号　高崎7:49発　⇒　軽井沢8:10着
・取引先に書類を渡す
・はくたか552号　軽井沢8:14発　⇒　高崎8:29着
・B子に会い、吾妻線高崎8:43発の列車で、出発前に睡眠薬を飲ませトイレで殺害
・はくたか553号　高崎8:43発　⇒　軽井沢9:00着
・西武高原バス　軽井沢9:35発　⇒　万座鹿沢口10:31着（運転手乗車確認）
・西武高原バス　万座鹿沢口10:37発　⇒　草津温泉11:05着（B子と同じバス）

B子の行動予定
・吾妻線　高崎8:43発　⇒　万座鹿沢口10:22着（乗車したが、トイレで他殺体）
・西武高原バス　万座鹿沢口10:37発　⇒　草津温泉11:05着

《吾妻線殺人事件》・・・次ページから

『吾妻線殺人事件』　　うましか作

群馬県高崎市と前橋市の二大都市に挟まれるようにしてその町はある。村の名前がそのまま町になったような変わった響きを持つが，自衛隊が駐屯する以外は変わったところも無く，大合併にも孤高を堅持して独立を保っている。

その町にある，ある高等学校を１０年前三人の高校生が卒業した。共学校で，どこといって派手さの無い学校であったし，幼馴染ということで仲良くしていた男女三人組ではあったが，特に三角関係などのどろどろしたところもなく，健全な遊び仲間といったところであった。

平成 28 年 4 月 16 日土曜日，吾妻線万座鹿沢口 10 時 45 分発高崎行き普通列車のトイレ内で，若い女性の絞殺死体が発見された。万座鹿沢駅の改札から停車中の列車に飛び込んできた地元のおっさんが，「便所が開かねぇ，しょんべん漏れっちまうよ。」と騒ぎ出し，発車時刻を延長して車掌が施錠されたトイレのドアを開けたところ，トイレ内に仰向けに女性が倒れていた。すでに死亡していることが明らかであり，首に絞殺痕があったことから長野原署に通報，署員が臨場して現場捜査に当たる。

トイレのドアは内側から施錠されており，密室状態となっていたため，捜査員は色めきたった。監察医が現場で遺体を検死した限りでは，死因は絞殺。死亡推定時刻は，当日 10 時から 11 時の間であると推定された。詳しくは解剖が必要であるが，睡眠薬で昏睡状態であったと認められた。また，遺体の内ポケットから同窓会の招待状と，診察券入りの財布が発見され，それによると，ガイ者は高崎市在住のＢ子 28 歳と思われた。

長野原署の捜査員が，列車内を忙しく検分していると，スーツを着た狸みたいに小太りの男と，よれよれのお釜帽のどん亀みたいな中年男が連れ立ってのっそりと車内に入ってきた。「なんだおめぇら？」捜査員が驚いて誰何する。

「私，こういうモンです。」スーツの男がやおら警察手帳を掲げる。「へ，警視庁の十津川さん？」「おなじく，亀井と申します。」「若しかして，あの十津川警部でありましょうか？」にわかに緊張した署員の態度が改まる。「いやぁ，亀井君と群馬県警の合同研修会に出席してたんですが，群馬ならやっぱりチョイナチョイナの草津温泉ということで，鈍行に乗って新前橋から到着したらこの騒ぎ，ということですよ。」「我々は，鉄道事件のアリバイ崩しには欠かせませんからねぇ。」「鉄道ミステリーには欠かせない，十津川さんのご登場とは恐れ入ります。ぜひ，われわれ田舎警察にも，そのご手腕をご教授ください。ハハハ。」（なんだ，こいつら。まだ，容疑者も特定されていねぇのに，アリバイ崩

しだぁ？？　ま，面倒な事件になりそうなので，こいつらに全部任せっちまうとするか。）

　ということで，われ等が十津川・亀井コンビが本件の捜査に当たることになり，長野原署の刑事課長以下は高みの見物へと回ったのである。

「さて，亀さん，ガイ者の懐にあった招待状によると，本日午後６時から，草津温泉ホテル望雲荘で，玉村高校の同窓会に出席予定だったみたいですな。今からタクシーを飛ばせば間に合うでしょう。いって見ますか。」
　二人が，ホテルのコンベンションルームに向かうと，２０人ほどの若者が談笑中であった。「皆さん，お楽しみ中のところ申し訳ありません，私たちこういう者ですが，同級のＢ子さんについてお伺いに参りました。」すると，一同から少し離れて浮かない顔をしていた男性二人が，血相を変えてすっ飛んできた。「Ｂ子に，なにかあったんですか！」「あなた方は？」
　「俺は，Ｃ輔，こちらの，のっぽは，Ａ男です。Ｂ子とは，仲良くしていたもので。」「落ち着いて聞いてください。Ｂ子さんは，お亡くなりになりました。詳しい状況は申せませんが，殺害された可能性があります。」「ええっ・・・」
　「申し訳ありません，当人と特に面識があるようなので，別室でお話を伺いたい。」
　「俺たちは，同窓会で久しぶりに近況を語り合おうと，連絡を取り合っていたんです。」まず，Ｃ輔が語りだした。「自分は，川原湯温泉で小さな温泉宿を営んでいるんです。俺は旅館業組合の仕事の関係で先に行っているから，草津温泉バスターミナルで２人が来るのを待っているよと伝えました。Ｂ子は，私は，群馬県高崎市に住んでいるので，ＪＲ吾妻線で万座鹿沢口駅まで行き，バスで草津温泉に向かいます。と言っていました。」
　Ａ男は，「僕は，Ｃ輔に，軽井沢駅前にある取引先に書類を届けなきゃいけないので、東京から北陸新幹線で行きます。と伝えました。Ｂ子の連絡先は分からなかったので，Ｃ輔からＢ子も同じバスに乗るみたいだよ，と言われて楽しみにしていました。」
　「ところが，草津温泉バスターミナルには，Ａ男しかバスから降りて来ませんでした。」「あれ？Ｂ子は？」「俺の問いかけにＡ男は，軽井沢から草津へのバスは万座鹿沢口に停まるのにＢ子は乗らなかったんだ。バスの運転手さんに聞いたら，長野草津口駅からは草津温泉行きのバスがたくさん出ているらしいので，もしかしてそっちからバスに乗ったのかも？と思って一人で来た。と答えました。」
　「草津に着くとＣ輔がひとりで待っていて，Ｂ子は来ていないとのことでし

た。じゃ，長野原草津口駅からの次のバスで来るかもしれないから、しばらく待つか。と待ってみましたが，とうとう来ませんでした。こんなことになるなんて・・・」
「事情は良く分かりました。犯人は必ず挙げて見せます。我々にお任せください。」十津川と亀井は二人にそう請合うと，ひとまず長野原署の公費で借り上げた湯畑前の有名旅館山本館に落ち着いた。

「さて，亀さん。こんな小説だから面倒はなしだ。ずばり，怪しいのはＣ輔とＡ男だ。」「そうですね，ちゃっちゃと片づけて，可愛い子でも呼びましょう。」「先ず動機。動機のある奴がホシだ。そして，ミステリーではホシは必ず鉄壁のアリバイというのをひけらかす。そいつを崩せば我々の勝ちだ。」「それと，密室ってやつもありますが？」「そんなのは，簡単だ。このヤマでは，ホシはホトケが見つかるまでの時間を稼ぎたかった。そこで，ガイシャを便所で絞め殺し，鍵をかけた。電車の便所の鍵は，内側からノブを回すと鉤が框に引っかかる構造だから，細い針金を結んで扉を強く閉め，鉤が落ちたら針金を外せばよい。」「さすが，警部。お見事。」「ははは」「そうと決まれば，明日からの聞き込みに備えて，ひとっ風呂浴びて英気を養いますか。」

翌日，川原湯温泉で聞き込みを行うと，Ｃ輔の旅館は民〇党の失政のあおりを食らって潰れかけていることが分かった。次に向かった高崎では，Ｂ子はスーパーのパートで暮らしていたことが分かったが，なぜか近隣の住民はかかわりを避けているようで，詳しいことは分からなかった。
Ａ男については，世田谷で小さなソフト会社を経営しており，セキュリティ関係のソフトで業績が急上昇していることが分かった。当日の行動については，Ａ男の取引会社の社員があさま 603 号で途中の本庄早稲田駅(8 時 13 分着)まで同行しており，また，軽井沢発 11 時 54 分発のバスの運転手も，Ａ男が軽井沢駅から乗っていた事を覚えていたため，アリバイが証明された形となった。
「警部，Ｃ輔のほうは金に困っていた，金目当ての犯行ですかね。」「いや，Ｂ子はしがないパートタイマーだ。その金を当てにしてのセンはないな。まず容疑者からは外そう。」「そうですね。Ａ男には鉄壁のアリバイって奴がありますし，まず本ボシに間違いなさそうですね。」「そうこなくっちゃ，我々が乗り出した意味がないよ。へへっ。」そして，二人は，秘められた過去を探る旅に靴底を減らして取り組む。そして，悲しい事実が明らかにされた。

高校時代，勉学に励んだＡ男は，そのかいあって東京のＫ大に合格。上京した。一方Ｃ輔は，家業の老舗旅館を継ぎ地道に経営を続けていたが，経営難に

陥った経緯は前述のとおりである。Ｂ子は，高崎に残ると，観音山の温泉旅館錦山荘で仲居の仕事にはげむこととなる。

Ａ男は大学を卒業し，大手証券会社に就職。Ｎ女子大出の美人妻と大恋愛の末結婚，可愛い娘も授かり前途洋々かと思えたが，そこへ米国由来のあの不況となる。しかし，Ａ男の会社は，その程度ではびくともしないはずであった。しかし，上司の大嶋が問題であった。大嶋は，Ｋ大の「内部生」だったのである。内部生は外部生を馬鹿にしていたが，家庭第一のＡ男は，社内の懇親会も一時会で帰り，大嶋からのワンデイラリーへの誘いも断っていた。そんな優等生ぶった態度も気に入らなく，陰険な大嶋は内部生同士のコネを使って人事部の先輩に影響を行使。Ａ男を関連会社の閑職に「栄転」の名目で追い出すことに成功する。

すると，それまで愛し合っていると思っていた妻が反旗を翻す。口を利かないばかりか，娘も奪い取るようにＡ男に抱かせることもしなくなった。やがて，出入りの営業マンと浮気していることが発覚したが，それとなく問いただすと居直り，親（奇しくも，Ａ男の飛ばされた会社のメインバンクの融資部長だった。）を使ってＡ男の会社との取引停止をにおわせ，離婚すること，娘の親権は妻がとること，そしてあろうことか，建てたばかりのマイホームのローン支払いはＡ男にさせること，多額の慰謝料まで支払うことをＡ男に認めさせた。ローンと慰謝料を支払うためＡ男は退職金を当てるほか無かった。この不況である。Ａ男には，隅田川のほとりでのブルーシートの仮住まいしか残された道は無かった。

その頃，Ｂ子は旅館で地道に働いていた。ところが，客として訪れた森口という男に目を付けられて人生が暗転する。森口は「狂犬」と呼ばれるヤクザであった。クイズが難しいと作成者の家に火をつける。解答できない問題の対象物を金属バットでボコボコに破壊するなどは朝飯前で，同じ組の構成員も誰もが目を付けられないようびくびくしているような男だった。

そんな森口の目に留まったＢ子は，あっという間に犯され，いうがままに森口のマンションに飼い殺しにされ，昼夜と無く森口が欲情すると行為に及ぶ生活となった。

Ａ男は，生活のため空き缶回収に明け暮れていたが，そんな時知り合った成城の広告作成会社の社長と意気投合し，アルバイトの職にありつくことができた。そして，以前趣味で取り組んでいたプログラムの技術を活かし，社長の援助も得て小さいながらもソフト会社を起業するところまでたどり着くことができた。

そんなとき，営業で訪れた高崎で，Ｂ子と再会する。おびえたように下を向くＢ子に事情を聞いたＡ男。二人が特別な関係になるまでに，そう時間は必要

なかった。しかし，このことが森口にばれれば，どのようなことになるかは火を見るよりも明らかであった。まるで草食動物のように警戒しながら密会する二人の日々。
　ところが，そんな二人に天が救いの手を差し伸べる。森口が行方不明となったのだ。その世界の話である。行方不明になったことはすなわちこの世から消滅したことである。これで，二人のささやかな人生に，明るい光が差し込むはずであった。
　好事魔多し，時を同じくしてＡ男に大手セキュリティ会社の常務令嬢との縁談が持ち込まれたのだ。あとは，良くある話である。Ａ男が這い上がるために選んだ結末は，人情的には許されないものであった。

　「亀さん，悲しい話だね。誰かが幸せになるためには，誰かの幸福を壊さなければならない。」「そんなのは，許されない。Ｂ子の幸せはどうなんですか。殴りつけてやります。」「まあ，抑えて。早速，彼のアリバイを崩しに行くか。」「はいちゃ。」

　十津川警部と亀井警部補は，川原湯温泉のＣ輔の旅館にＡ男とＣ輔を訪ねた。「Ａ男さん，あなたとＢ子さんの関係を調べさせていただきました。殺害にいたる動機も十分と我々は考えています。」
　Ａ男は一瞬目を見開いたが，すぐに真顔に戻ると「しかし，僕があさま 603 号で軽井沢に向かったことは，取引先の彼が証言しているでしょう。書類も軽井沢の事業所の職員が僕から直接受け取っている。軽井沢から草津まで，バスから降りなかったことはバスの運転手も見ていたはずだ。どうやって，吾妻線の彼女に手を下すことができるのか，こっちが教えてほしいくらいだ。」
　「では，彼女との関係は認めるんですね。」「まあ，そういうことだが，金で解決することで合意していた。僕は，殺していませんよ。」Ａ男は居直りに等しい態度でふんぞり返っている。「Ａ男，お前ってやつは・・・」「なんだ，Ｃ輔。お前みたいに苦労知らずですごしてきたボンボンに，僕の気持ちが分かってたまるか！」「む。俺だって，無能な政府のやりくちで傾いた宿を，なんとか立て直してきたんだ。」「ふん，住む家はあったってことだな。」
　「まあ，落ち着いて。Ａ男さん，あなたは，本庄早稲田で取引先の社員が下車した後，軽井沢に向かわず 8 時 23 分に高崎であさまを降りた。そして，Ｂ子さんと待ち合わせした吾妻線の４番ホームで二人は落ち合い，8 時 46 分発の吾妻線電車に乗り込んだ。これまでの経緯から二人の関係は秘密にされていた。同窓会場でのトリビアとして改めて関係を明かそうとでも打ち合わせてあったんでしょう。」と十津川。「そして，用意してあった睡眠薬入りのドリンクをＢ

子さんに飲ませる。それは，車内で二人が親密にしているところを目撃されないための手段だ。これなら，手を下す瞬間まで，Ｂ子さんとは離れた席に潜んでいることができる。悪知恵の働く悪党だよ，あんたは。」亀井がにくにくしげにＡ男を糾弾する。「そして 10 時過ぎ，トイレにＢ子さんを連れ込み，絞殺。トイレの鍵に小細工した後，何事も無く列車を降り，軽井沢に向かう。そのあとは，書類を事業所に届け，運転手の目撃のとおりに軽井沢に向かった。そういう訳だ。」

ここまで聞いたＡ男は，ふいに不届きな笑い声を上げた。「ふあっふぁは。鉄道アリバイ崩しの天才とも言われるお二人の推理にしては，笑止な。じゃ，僕はどこで吾妻線電車を降りたって言うのですか。万座鹿沢口から軽井沢に向かうバスは，その時間ありますか。ちゃんと調べてからものを仰りなさい。」「万座発 10 時 37 分の軽井沢行バスがある。列車の到着は 10 時 20 分だから十分間に合うだろう。」すると，Ａ男は十津川の問いを待ち構えていたように答えた。「そのバスは 11 時 38 分着のはずだ。僕は軽井沢の事業所で 30 分近く打ち合わせしています。11 時 54 分発の草津行に乗れるはずがない。ちゃんと聞き込みはなさっているんですか。」

痛いところを衝かれた十津川警部「昔は草軽電鉄が草津と軽井沢を結んでいた。可愛い軽便鉄道ですよ。戦後すぐのカラー映画では，この電鉄を舞台に高峰三枝子主演の物語が国民に感動を与えたんです。」「ほほう，推理に行き詰って，いらぬ薀蓄のご披露ですか。そんなことは，ＤＲのクイズねただけにしてほしいものですな。」「くっ」焦りの色を見せる十津川警部。いきなりタバコを喫い始めた。「警部，警部。ここは禁煙ですよ。それにタバコはやめたんじゃ・・・・」「くくくっ，妻には内緒だ，亀さん。」

しばらくの沈黙ののち，「おおっ」旅館の時刻表を見るとはなしに見ていた亀井警部補，あることに気づき意気込んで語る。「十津川さん，これを見てください，草津から軽井沢に向かうバスが，もうひとつある。これを使ったに違いない！！」

爆弾告知にもＡ男は余裕の態度である。「ほほう，よく見つけましたな。しかし，そのバス，吾妻線の駅を経由していますか。駅に停まらなきゃ乗れないでしょう。」そのとき，Ｃ輔の目が一瞬見開かれるのを十津川は見逃さなかった。しかし，切り札はまだ十津川と亀井の手にない。表面はしょげ返り，すごすごと退散するように旅館を後にしたのだった。

「十津川さん，このままでは済まされませんね。」「亀さん，ここは現場また現場だ。バス路線を歩いて追って見るぞ。」「はいちゃ！」

二人は草津バスターミナルへ向かうと，バス路線を歩いてたどり始める。「い

やぁ，高原とはいえ，歩きは運動不足の我々には堪えますな。日差しも強いし，あっちー。」「亀さん，バテていないで，あそこを見てください。あの農協のところは草軽の停留所の跡ですよ。遺構があるかもしれない。遺構に行こう，なんちゃって。」「警部，駄洒落や遺構探しは後にして，先を急ぎましょう。」

二人は路線をたどって吾妻線付近まで至った。今年の大河ドラマ，真田丸の赤い幟があたりに林立している。「バスは，長野原草津口のほうには向かっていないな。電車から飛び降りたか。」「警部，ここには真田ゆかりの羽根尾城跡というのがあるみたいですよ。あれっ？」亀井が何かに気づく。「警部，あれを見てください！！」

ここは，真田昌幸が上州沼田進出の足がかりとした山城，岩櫃城本丸。断崖絶壁の上に築かれている。そこに二人の若者が対峙している。「Ａ男，たのむ，自首してくれ。このままでは，アリバイのからくりを俺が曝露しなければならない。」「Ｃ輔。見損なったよ。友達を売るって言うんだな。」「Ｂ子だって友達じゃないか。それをお前は。」「しかたなかった。僕だって幸せを掴みたかったんだ。」「それは，Ｂ子だって同じだったはず。お前が自首しないなら，俺が力づくでも連れて行く，こいっ。」そのとき，城のふもとのほうからパトカーのサイレンが微かに響いてきた。

「くっ，時間がないようだな。Ｃ輔，お前ともこれまでだ。僕の人生の邪魔をする奴は，たとえお前でも許さない，消えてもらう。」二人はつかみ合い，もみ合いながら本丸の断崖へにじり寄っていく。やがて，体制を優位にしたＡ男がＣ輔を崖っぷちに突き出す。「死ねっ，Ｃ輔っ！！！！」

「Ａ男っ，そこまでだ。Ｃ輔君を放しなさいっ！」制服警官数人と長野原署の刑事，十津川と亀井がわらわらと現場に突入した。

「Ａ男っ，お前のたくらみはすべて曝露した。お前はＢ子さんを殺害したあと，吾妻線羽根尾駅に下車。長野原草津口のような大きな駅でないことが盲点となった。羽根尾駅のど真ん前には草津発軽井沢行きのバス路線，応桑道停留所がある。駅名とバス停名が相違しているのも，我々を欺くトリックだったんだ。」「10 時 15 分に列車を下車したお前は，10 時 17 分のバスに乗り軽井沢に向かう。乗り換えが２分しかないが，バス停は駅前なので楽勝だ。このバスは 11 時 16 分軽井沢着なので，書類を手渡し 30 分近く打ち合わせもしてアリバイを作り，11 時 54 分発草津行バス内でも運転手に話しかけて，印象を強く残した。そのころにはＢ子さんのご遺体は発見され，万座鹿沢口では大騒ぎになっている。」亀井刑事が決めつける。最後に十津川警部が「謎はすべて，解明された。あきらめて，おとなしく縛につきなさい。」とＡ男に詰め寄った。

「ははっ，最後は捕り物帳の決め言葉ですか。それでは，こちらも『もはや，

これまでっ。』と答えますか。」
　Ａ男は真顔となり，ふいにＣ輔の体を掴んでいた手を離すと，崖際に歩み寄った。「すべては見果てぬ夢ということか。いいでしょう。僕も，あの世とやらでＢ子に謝らなければならない。許してもらえるかは分からないが，どれだけかけても許して貰い，永遠に寄り添っていくことにします。みなさん，さようなら。」
　「Ａ男っ！」「やめなさいっ！！」「あっ」十津川たちが駆け寄る暇も無く，Ａ男の体はすうっと山城の裾を覆う霧の中へと吸い込まれていった。そのとき，霧の底に微笑むＢ子の姿が見えたのは，幻だったのだろうか・・・・

　その夜，草津温泉山本館大宴会場。「う～い，じゃんじゃん酒持ってきて～」「おう，おう，おう，お姉ちゃん可愛いね～，おじさん，もう，こうしちゃおうかなーーー」「きゃー，お客さん，エッチーーー」沢山のコンパニオンを侍らせて豪遊する，十津川警部と亀井警部補の姿があった。経費は，事件解決で恩を売った長野原署がすべて負担していることは，いうまでもない。

了